

第2期 上富田町まち・ひと・しごと 創生総合戦略

（令和7年6月改定版）

令和2年6月
和歌山県上富田町

「第2期 上富田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」 によせて



上富田町長 奥田 誠

わが国では、人口減少、大都市圏の一極集中、少子高齢化といった課題があり、このことは、上富田町も例外ではなく、これから先、産まれてくる私たちの子や孫たちは、大変な時代を迎ることが想定されています。

そこで、国は、平成26年11月に「まち・ひと・しごと創生法」を制定するとともに、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を定めて推進してきました。

上富田町でも、平成27年10月に「上富田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、地方創生を推進してまいりました。

地方創生とは、活力ある町であり続けるための取り組みで、誰もが安心して育ち、学び、働き、そして、元気に暮らすことができる上富田町をめざすものです。

そのひとつに、「上富田スポーツセンター」を軸に「一般社団法人南紀ウエルネスツーリズム協議会」とともに、青少年の健全育成、町民の健康づくりと介護予防対策、スポーツ観光振興による地域経済の活性化に取り組み、さらには、「一般社団法人紀州くちくまの未来創造機構」が運営する「紀州くちくまの熱中小学校」による起業・創業を志す人材の育成にも取り組んできました。

今後も、切れ目のない地方創生を推進していくために、「第2期 上富田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定することとし、産業振興による働く場の確保、新しい人の流れの創出による関係人口の増加、子育て支援による今後の人口減少の歯止め、ハードとソフトが一体となった防災・減災対策、また、Society5.0の推進による地域課題の解決とSDGsの実現など持続可能なまちづくりに取り組んでまいります。

そのためにも、地域住民の皆さまや民間の法人と協働していくことが必要不可欠となります。

「花咲く明日」を目指して、引き続き、町民の皆さまのご理解とご協力を願い申し上げます。

目 次

第1章 上富田町総合戦略策定にあたって	1
人口減少は長期的・継続的に取り組むべき大きな問題	1
1. 基本的な考え方	1
(1) 人口減少と地域経済縮小の克服への基本的視点	2
(2) まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立	2
(3) まち・ひと・しごとの創生に向けた政策5原則	3
2. 総合計画と総合戦略の関係について	3
3. 計画の期間	3
4. 計画の策定方法について	4
(1) 「第2期 上富田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定の必要性	4
(2) 策定する人口ビジョン及び総合戦略	4
『策定体制』	4
第2章 総合戦略の基本目標	5
1. 人口減少に対応するための基本目標	5
(1) 進捗把握の重要業績評価指標（KPI※）・数値目標を設定	5
(2) 「上富田町人口ビジョン」が示す中長期展望（目標）について	6
(3) 上富田町の5つの「基本目標」	8
第3章 総合戦略の推進体制	9
1. P D C Aサイクルの導入	9
2. 施策の進捗管理体制と外部有識者の参画	9
3. 進捗状況の点検	9
4. 地域間の連携推進	9
第4章 総合戦略基本目標と具体的施策について	10
基本的方向と施策	10
【基本目標1】働く場のあるかみとんだ	11
【基本目標2】人が集まるかみとんだ	12
【基本目標3】子育てするならかみとんだ	14
【基本目標4】元気でいきいきかみとんだ	17
【基本目標5】みんなで支えるかみとんだ	20
S D G s (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標) との関係	22

第1章 上富田町総合戦略策定にあたって

人口減少は長期的・継続的に取り組むべき大きな問題

人口減少は長期的・継続的に取り組むべき大きな問題です。人口減少に歯止めをかけるには長い時間を要します。国は、平成2年の「戦後最低の合計特殊出生率1.57ショック」を契機に、出生率の低下と子どもの数が減少傾向にあることを「問題」として認識し、仕事と子育ての両立支援など子どもを産み育てやすい環境づくりに向けての対策を進めてきました。上富田町も国の歩調に合わせ、上富田町総合計画や次世代育成支援行動計画、子ども・子育て支援事業計画を通じて、長期に渡り取り組んできました。

「第2期 上富田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下、総合戦略）では、人口減少を最小限に食い止め、人口減少と地方創生に対応する施策を強化し、1つ1つを積み重ねながら、上富田町の付加価値をつけてゆき、人口減少と地方創生に取り組んでいきます。目標の実現には、住民、行政、企業などあらゆる主体の積極的な参画が不可欠であり、関係機関や企業等とも連携しながら、上富田町の総力を結集し、スピード感を持って取り組みを進めていきます。

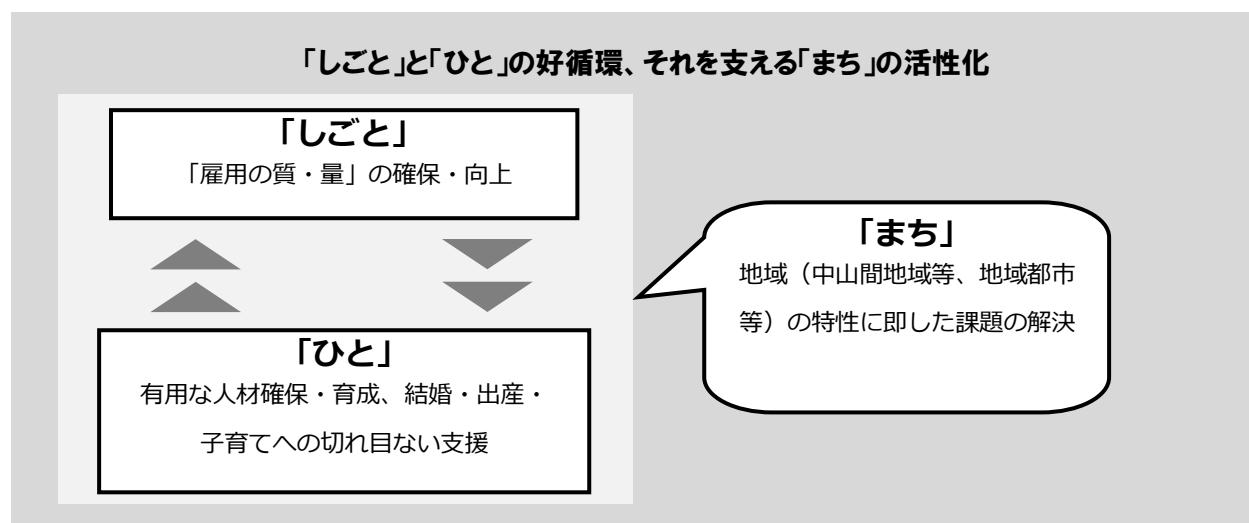
1. 基本的な考え方

国が令和元年12月に改訂した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」と「第2期 まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案して、上富田町の第2期総合戦略を策定します。

総合戦略は、人口減少と地域経済縮小を克服するものであり、長期的には地方で「ひと」をつくり、その「ひと」が「しごと」をつくり、「まち」をつくるという流れを確かなものにするためのものです。

人口減少問題は地域によって状況や原因が異なります。従って、将来に向け上富田町が抱える課題に応じた対応策が必要となります。

人口減少問題は、国だけでなく、都道府県、市町村が一体となり長期的にわたって取り組まなければ対応できないものです。次の世代が暮らしやすい社会になるよう、現段階から人口減少、少子高齢化への対策を日本全体で講じることが求められています。



（1）人口減少と地域経済縮小の克服への基本的視点

人口減少を克服し、地方創生を成し遂げるため、国からは以下のような基本的視点が出ています。上富田町としても人口、経済、地域社会の課題に対して一体的に取り組むことが重要です。

①「東京一極集中」を是正する。

地方から東京圏への人口流出に歯止めをかけ、「東京一極集中」を是正するため、「しごとの創生」と「ひとの創生」の好循環を実現するとともに、東京圏の活力の維持・向上を図りつつ、過密化・人口集中を軽減し、快適かつ安全・安心な環境を実現する。

②若い世代の就労・結婚・子育ての希望を実現する。

人口減少を克服するために、若い世代が安心して就労し、希望通り結婚し、妊娠・出産・子育てができるような社会経済環境を実現する。

③地域の特性に即して地域課題を解決する。

人口減少に伴う地域の変化に柔軟に対応し、中山間地域をはじめ地域が直面する課題を解決し、地域の中において安全・安心で心豊かな生活が将来にわたって確保されるようにする。

（2）まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立

国においては、好循環を確立する取り組みについて、以下のような項目をあげています。上富田町でも新たな人の流れを生み出し、その好循環を支える「まち」に活力を取り戻し、人々が安心して生活を営み、子どもを産み育てられる社会環境をつくり出す取り組みが必要です。

①しごとの創生

地域に根付いたサービス産業の活力、生産性の向上、雇用のミスマッチに対する経済の状況や変動に応じた円滑な対応など、『雇用の質』の確保・向上に注力する。

若い世代が安心して働ける「相応の賃金」+「安定した雇用形態」+「やりがいのあるしごと」等の要件を満たす雇用の提供が必要。また地域における女性の活躍を推進する。

地域経済に新たな付加価値を生み出す核となる企業・事業の集中的育成、企業の地方移転、事業承継の円滑化等に取り組み、安定的な『雇用の量』の確保・拡大を実現する。

②ひとの創生

地方への新しい人の流れをつくるため、若者の地方での就労を促すとともに、地域内外の有用な人材を積極的に確保・育成し、地方への移住・定着を促進する仕組みを整備する。

安心して子どもを産み育てられるよう、結婚から妊娠・出産・子育てまで、切れ目のない支援を実現する。

③まちの創生

それぞれの地域が個性を生かし自立できるよう、ＩＣＴを活用しつつ、まちづくりにおいてイノベーションを起こしていくことが重要。

中山間地域等において地域の絆の中で人々が心豊かに生活できる安全・安心な環境の確保に向けた取組を支援するとともに、都市のコンパクト化と交通ネットワーク形成の推進や、広域的な機能連携、大都市圏等における高齢化・単身化の問題への対応、災害への備えなど、それぞれの地域の特性に即した地域課題の解決と、活性化に取り組む。

（3）まち・ひと・しごとの創生に向けた政策5原則

国は人口減少の克服と地方創生を確実に実現するため、次の5つの政策原則を掲げています。上富田町においても、次の政策5原則に基づきつつ、関連する施策を展開することが必要です。

①自立性

構造的な問題に対処し、地方自治体、民間事業者、個人等の自立につながる施策にする。

②将来性

地方が自主的かつ主体的に、夢を持って前向きに取り組むことを支援する。

③地域性

各地域の実態に合った施策を受け手側の視点に立って支援する。

④直接性

最大限の成果をあげるため、ひとの移転、しごとの創出やまちづくりを直接的に支援する施策を集中的に実施する。

⑤結果重視

P D C A[※]メカニズムの下、具体的な数値目標を設定し、効果検証と改善を実施する。

※Plan（計画）、Do（実施）、Check（評価）、Action（改善）の4つの視点をプロセスの中に取り込んで、プロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法のことです。

2. 総合計画と総合戦略の関係について

人口減少と地域経済縮小に関しては、以前より上富田町総合計画の各施策にて、対応をしてきました。より強化をしていくために、「上富田町総合計画」と「上富田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の位置づけについては、以下の通りです。

第5次 上富田町総合計画

総合戦略は、第5次総合計画の下位に位置し、人口の維持・増加をめざす政策分野に絞った計画とする。

第2期 上富田町まち・ひと・しごと創生総合戦略

3. 計画の期間

「第2期 上富田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の期間は令和2年度～令和7年度の6年間とします。

年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
第5次 上富田町総合計画											
第2期 上富田町まち・ひと・しごと創生総合戦略											

4. 計画の策定方法について

(1) 「第2期 上富田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定の必要性

人口が減少する見込みであるため、人口に関する長期的な展望を定め、それを基に人口減少対策を中心とした長期的かつ総合的な計画を策定する必要があります。

(2) 策定する人口ビジョン及び総合戦略

国が令和元年12月に改訂した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」と「第2期 まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案して、上富田町の人口ビジョン及びその達成のための総合戦略を策定します。

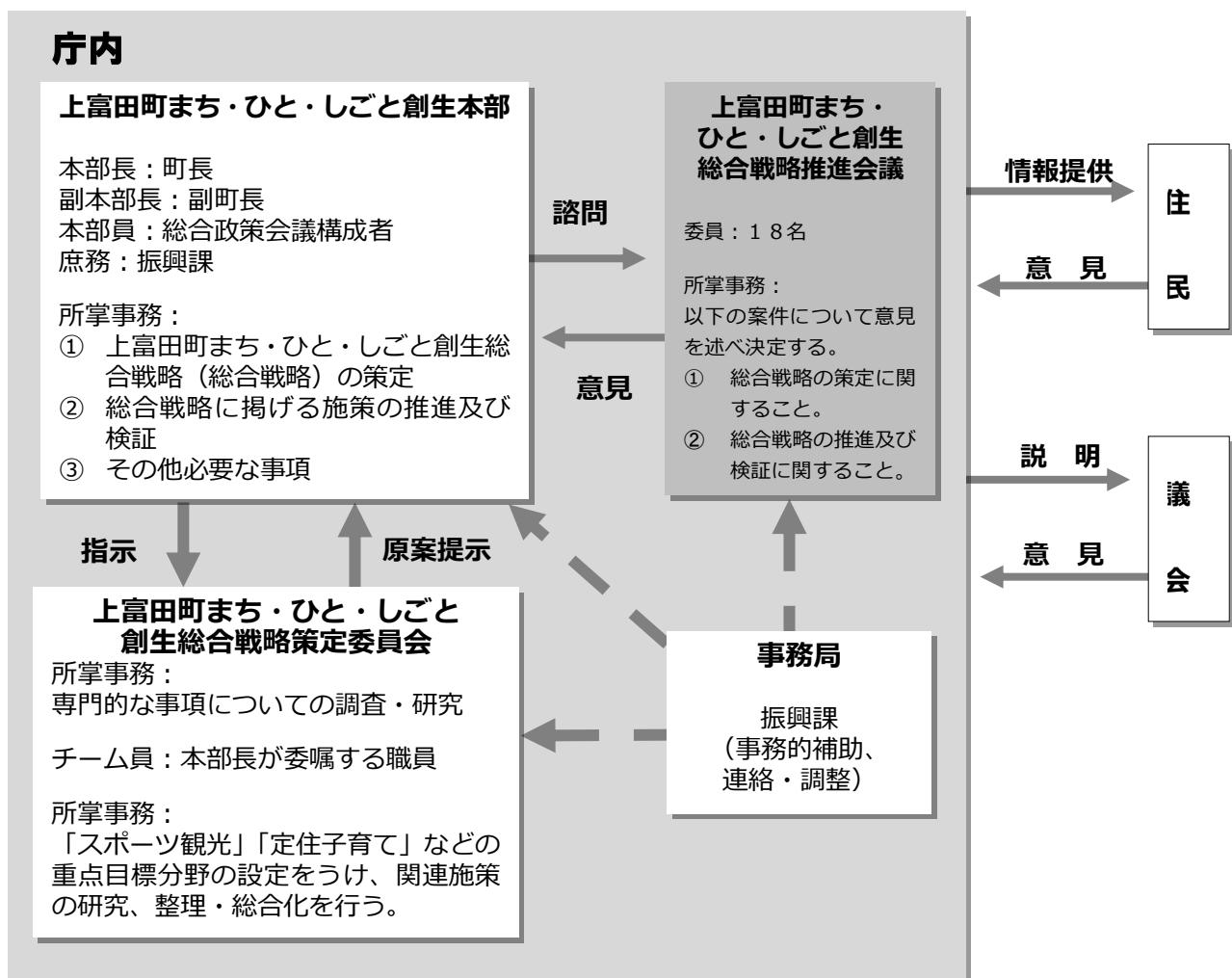
○人口ビジョン

人口ビジョンでは、現状分析、将来推計（このままいくとどうなるか）をふまえ、人口の将来像に対する「目標」を定めるとともに、目標を実現するために具体的にすべきことについて、方向性を提示するものです。対象期間は、国の長期ビジョンの期間（2060年）を基本とします。

○総合戦略

人口ビジョンを基に、上富田町における6か年（令和2年度～令和7年度）の目標、施策の基本的方向性や施策を提示する戦略を策定します。内容は、人口ビジョンを実現するために必要な人口減少を増加に転じる、又は減少を緩和するための方策を総合的に取りまとめます。

《策定体制》



第2章 総合戦略の基本目標

上富田町における人口の将来展望（目標）を実現し地方創生を成し遂げるため、基本目標を定め具体的な施策を推進します。なお、各施策の重要業績指標（KPI）については、上富田町総合計画との関係も含め、計画の評価に際し見直しをしながら進めていきます。

1. 人口減少に対応するための基本目標

国の政策5原則に基づき、まち・ひと・しごとの一体的な創生を図っていくために、上富田町の地域経済・社会の実態に関する分析をしっかりと行い、「上富田町人口ビジョン」を基にし、総合戦略を策定し目標を設定します。

（1）進捗把握の重要業績評価指標（KPI※）・数値目標を設定

国の「総合戦略」では、政策の「基本目標」を明確に設定し、それに基づく適切な施策を内容とする「政策パッケージ」を提示するとともに、政策の進捗状況について重要業績評価指標（KPI）で検証し、改善する仕組み（PDCAサイクル）を確立しています。

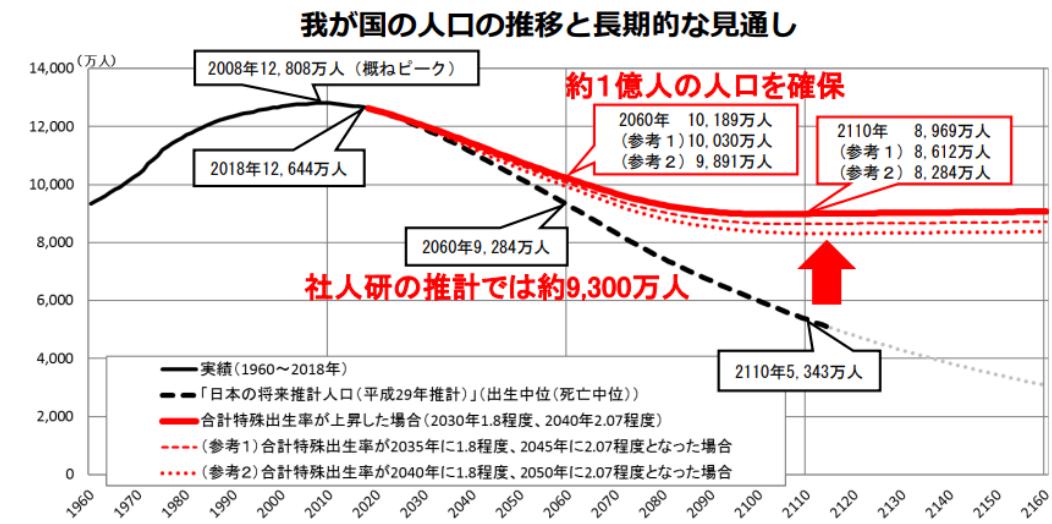
上富田町においても「上富田町人口ビジョン」が示す人口の中長期展望（目標）を踏まえ、目標を設定し、各施策の重要業績評価指標（KPI）・数値目標を設定します。

国の「長期ビジョン（令和元年改訂版）」が示す中長期展望：令和42（2060）年に1億人程度の人口を確保
目指すべき将来の方向

将来にわたって「活力ある日本社会」を維持する

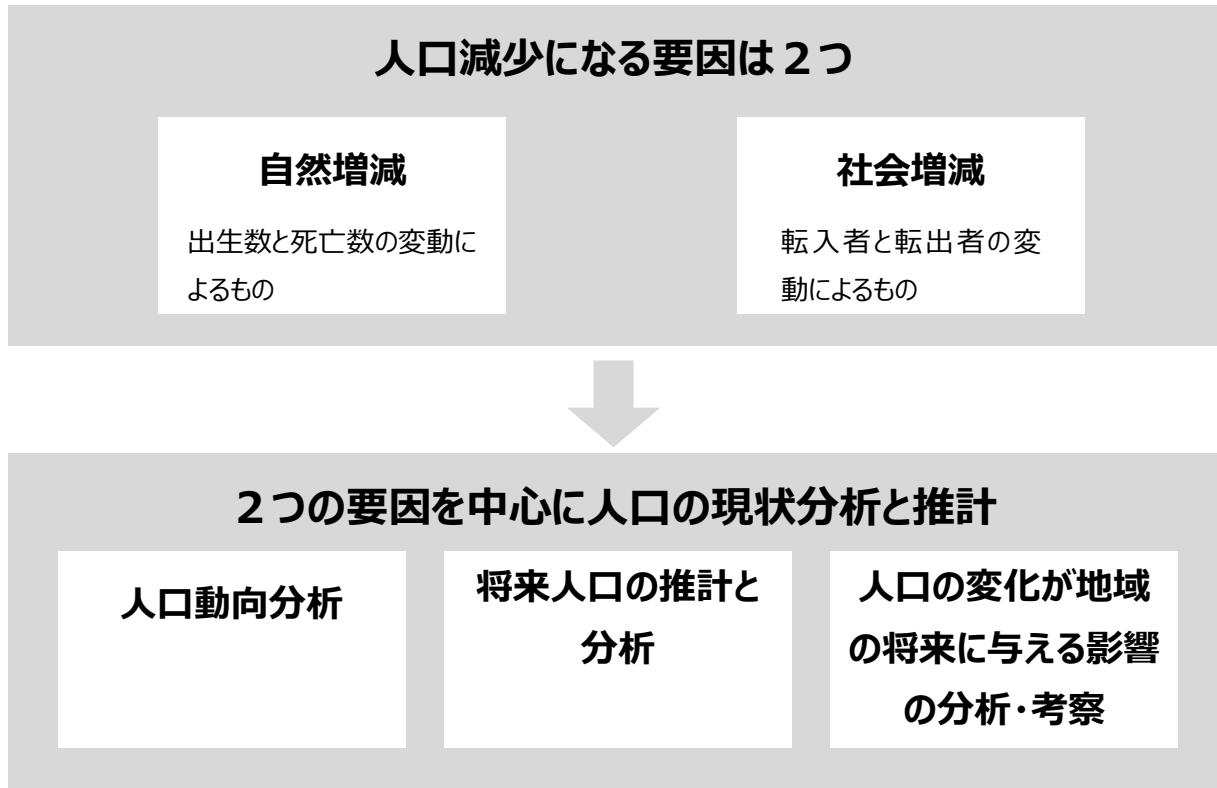
- 若い世代の希望が実現すると、出生率は1.8程度（令和17（2035）年）に向上する。
- 人口減少に歯止めがかかると、令和42（2060）年に1億人程度の人口が確保される。

長期的にも約9,000万人で概ね安定的に推移すると推計。



（2）「上富田町人口ビジョン」が示す中長期展望（目標）について

上富田町の人口ビジョンの対象期間は、2024年～2060年とします。人口の現状分析を踏まえて、目指すべき将来の方向性を検討するとともに、上富田町の人口の将来展望（目標）を提示します。人口減少については、主に2つの要因が原因となっています。2つの要因動向を追いかながら、現状を把握し、将来を見据え、どのような人口になるのか人口の将来像「目標」を定めるとともに、目標を実現するための方向性を提示するものです。



本町の総人口は、1980年以降2000年までは順調に増加してきました。しかしながら、2005年には増加傾向も鈍化しており、今後、本格的な人口減少期に入る可能性が高くなっているといえます。

年齢別構成では、2000年に年少人口と高齢人口比率の逆転が起きています。2020年において団塊の世代（70～74歳）が男女ともに多くなるなど、大きく高齢化しています。2020年の高齢人口比は27.0%、年少人口比は14.1%となっており、全国のそれぞれ28.0%、11.9%と比べると高齢化進捗度合いは緩やかなものの、今後少子高齢化が加速的に進む可能性が高いと思われます。

本町においては、転出が多い15歳～24歳の年齢層が定住してもらえるように、今後も住みやすい町づくりを続けていく必要があります。また、子育て期にあたる20～39歳女性人口の減少などを考えると、自然増減と社会増減の両面に対する施策に取り組む必要があると考えられます。

「上富田町人口ビジョン」が示す中長期展望（目標）

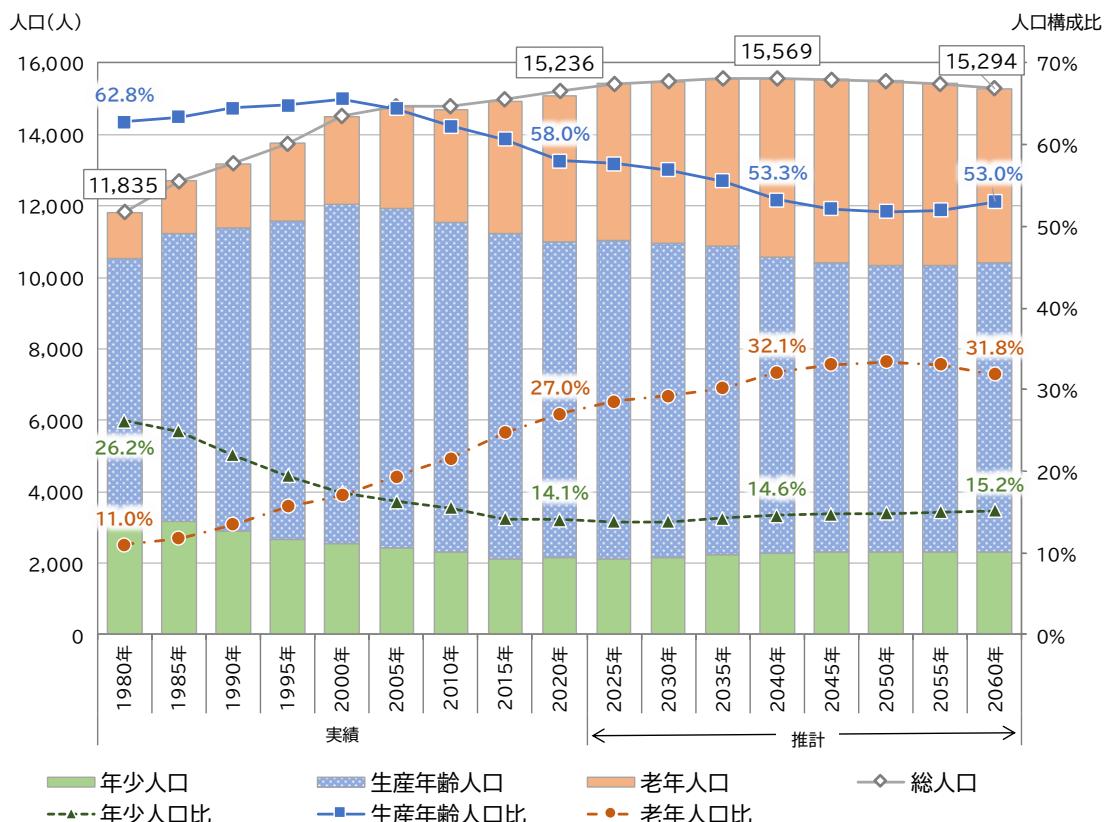
人口ビジョンの目標として、今回のシミュレーション及び本町の施策方針に照らしつつ、意欲的かつ実現性のあるものが求められます。これをふまえて検討した結果、「出生率中位、純移動率高位」※の推計値としました。一方、2020～2022年の住民基本台帳における純移動率が増加しています。これを考慮して、前述の推計値（国勢調査ベース）における2025年の純移動数を見直し、最終的な人口ビジョンの目標としました。

これまでの本町のさまざまな施策によって人口対策の効果が現れてきました。それらの施策を継続できれば、若い世代の結婚が促進し、出産・子育ての希望が実現し、合計特殊出生率が2030年に「1.90」へ上昇することも期待できます。また、積極的な移住や定住促進施策を継続できれば、純移動率も現状に準じた高い値で推移すると想定しています。

これにより緩やかな人口減少と年齢構成のバランスを維持することにより、高齢化率も2050年に33.4%のピークを迎えたあと、2060年には31.8%になると想定されます。

そのためには、人口に関する施策をアップデート、さらには向上を絶え間なく続けることと、住民の皆さんと情報を共有し、互いの理解を深めることが必要であると考えます。

これらのこととふまえて、今後とも施策の充実に取り組んでまいります。



※ 出生率中位…合計特殊出生率中位予測（2020年：1.66 2035年：1.90）

※ 純移動率高位…純移動率高位予測 直近5年間の実績（2015年～2020年）

（3）上富田町の5つの「基本目標」

国の「第2期 まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、「長期ビジョン」を踏まえ、政策分野を勘案して、令和2年度以降の施策分野の方向性として4つの基本目標と2つの横断目標を設定しています。和歌山県においては、5つの基本目標を設定しています。

「第2期 上富田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」においては、国の基本目標と横断目標を勘案し、和歌山県の基本目標も参考にしながら、上富田町の実情に合わせた基本目標を設定します。

また、Society 5.0の推進による地域課題の解決とSDGsの実現など持続可能なまちづくりを目指します。

■国のまち・ひと・しごと創生総合戦略が定める基本目標及び横断目標

- 基本目標 1 稼ぐ地域をつくるとともに、安心して働けるようにする**
- 基本目標 2 地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる**
- 基本目標 3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる**
- 基本目標 4 ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる**
- 横断目標 5 多様な人材の活躍を推進する**
- 横断目標 6 新しい時代の流れを力にする**

■和歌山県のまち・ひと・しごと創生総合戦略が定める基本目標

- 基本目標 1 ひとを育む ◆未来を拓く人を育む和歌山**
- 基本目標 2 しごとを創る ◆たくましい産業を創造する和歌山**
- 基本目標 3 いのちを守る ◆安全・安心で尊い命を守る和歌山**
- 基本目標 4 くらしやすさを高める ◆暮らしやすさを高める和歌山**
- 基本目標 5 地域を創る ◆魅力のある地域を創造する和歌山**

■上富田町のまち・ひと・しごと創生総合戦略が定める基本目標

- <基本目標 1>働く場のあるかみとんだ**
 - ◆上富田町における安定した雇用を創出する
- <基本目標 2>人が集まるかみとんだ**
 - ◆上富田町への新しいひとの流れをつくる
- <基本目標 3>子育てするならかみとんだ**
 - ◆結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- <基本目標 4>元気でいきいきかみとんだ**
 - ◆時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する
- <基本目標 5>みんなで支えるかみとんだ**
 - ◆町民全体の知恵と力でもって、これからの中富田町をつくる

第3章 総合戦略の推進体制

1. PDCAサイクルの導入

まち・ひと・しごと創生を実現するためには、まず、効果的な総合戦略を策定し、着実に実施していくとともに、設定した数値目標等を基に、実施した施策・事業の効果を検証し、必要に応じて総合戦略を改訂するという一連のプロセスを実行していきます。

PDCAサイクルとは、PLAN（計画）、DO（実施）、CHECK（評価）、ACTION（改善）の4つの視点をプロセスの中に取り込むことで、プロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法のことをいいます。上富田町において人口減少と地域課題に基づく適切な短期・中期の政策目標を設定し、「第2期 上富田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の進捗を検証し、改善していくPDCAサイクルを確立することが重要です。必要に応じて、「第2期 上富田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の改訂（バージョンアップ）も行います。

2. 施策の進捗管理体制と外部有識者の参画

「第2期 上富田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の実施にあたっては、自治体だけに限らず、住民代表に加え、産業界・大学等の教育機関・金融機関・労働団体・メディア（産・官・学・金・労・言）が連携し効果的な施策が実施されるよう、それぞれの代表も加わった形で、PDCAサイクルに基づく効果検証を行います。

そのために、産・官・学・金・労・言に加え、住民代表からなる上富田町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議を設置しています。

3. 進捗状況の点検

産業や人口、社会インフラ等の現状や将来の動向に關し必要なデータ分析を行い、地域の強み・弱みなど特性に即した地域課題等を踏まえ「第2期 上富田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づく施策のPDCAサイクルを確立します。

○評価主体 「上富田町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」と
「上富田町まち・ひと・しごと創生本部」

○評価対象 上富田町まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策と各事業の進捗状況について

○評価する時期 毎年6月頃

4. 地域間の連携推進

国は、地方公共団体間の広域連携に關し、重複する都市圏概念を統一し、経済成長のけん引などの機能を有する「連携中枢都市圏」の形成を促進し、財政面やデータ分析面での支援等を行っています。併せて、従来からの定住自立圏の形成を進め、地域連携による経済・生活圏の形成を推進しています。

上富田町においても、こうした地域連携施策を活用しつつ、地域間の広域連携を積極的に進めることとし、「第2期 上富田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に順次反映させていきます。

第4章 総合戦略基本目標と具体的施策について

基本的方向と施策

基本目標	基本的方向	施 策
1 働く場のある かみとんだ ◆上富田町における安定した雇用を創出する	1.農業振興を推進し担い手を増やす	(1)農業の担い手の確保と育成
	2.企業誘致を推進し雇用を増やす	(2)企業誘致
2 人が集まる かみとんだ ◆上富田町への新しいひとの流れをつくる	1.関係人口を増やす	(3)スポーツによる観光振興 (4)民泊の推進
	2.移住・定住環境の整備	(5)空き家の登録
3 子育てるなら かみとんだ ◆結婚・出産・子育ての希望をかなえる	1.みんなで育てよう上富田の子ども	(6)子育て支援センターの周知
	2.心豊かな子どもの土台を育てる	(7)保育士・調理師の研修 (8)幼児の一時預かり (9)スポーツによる子どもの健全育成
	3.豊かな心・確かな学力・健やかな体を育む	(10)学校施設の充実 (11)学力・体力の向上
4 元気でいきいき かみとんだ ◆時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する	1.自分でつくろう自分の健康	(12)スポーツによる健康増進と介護予防 (13)運動する人を増やす (14)健診率の向上
	2.みんなでつくる災害に強い町	(15)防災・減災対策 (16)橋梁・トンネル等の長寿命化 (17)水道施設の耐震化
5 みんなで支える かみとんだ ◆町民全体の知恵と力でもって、これからの中富田町をつくる	1.「愛町心」を育む	(18)歴史・文化の継承
	2.中富田のアイデンティティを高める	(19)熊野高校との連携

【基本目標1】働く場のあるかみとんだ

◆上富田町における安定した雇用を創出する

■数値目標

新規就農者 4 人、農業以外の雇用創出者 230 人増を達成する。

基本的方向

- 農業振興を推進し担い手を増やす
- 企業誘致を推進し雇用を増やす

施策と重要業績評価指標（ＫＰＩ）

1. 農業振興を推進し担い手を増やす

(1) 農業の担い手の確保と育成	
施策内容	新規就農者の確保及び親元就農も含む後継者の確保を図るとともに、地域産品の開発にも取り組む。
KPI (重要業績評価指標)	<ul style="list-style-type: none">○新規就農者の確保・・【通算積み上げ目標】 H27～R元年度 4 人 → R2～R7 年度 4 人増（累計 8 人）○地域特産品の開発・・【通算積み上げ目標】 R元年度 0 品 → R2～R7 年度 1 品
具体的な事務事業	農業次世代人材投資資金事業

2. 企業誘致を推進し雇用を増やす

(2) 企業誘致						
施策内容	企業誘致活動及び起業・創業へのアプローチを官民協働で推進し新たな雇用を創出する。					
KPI (重要業績評価指標)	<ul style="list-style-type: none">○雇用創出者数・・【通算積み上げ目標】 *農業除く H27～R元年度 39 人 → R2～R7 年度 230 人増（累計 269 人）					
具体的な事務事業	<table border="1"><tr><td>事業所等立地促進事業等</td><td rowspan="2">振興課企画・商工観光班</td></tr><tr><td>小規模事業者経営改善資金利子補給事業</td></tr><tr><td>(一社)紀州くちくまの未来創造機構による「紀州くちくまの熱中小学校」の運営</td><td></td></tr></table>	事業所等立地促進事業等	振興課企画・商工観光班	小規模事業者経営改善資金利子補給事業	(一社)紀州くちくまの未来創造機構による「紀州くちくまの熱中小学校」の運営	
事業所等立地促進事業等	振興課企画・商工観光班					
小規模事業者経営改善資金利子補給事業						
(一社)紀州くちくまの未来創造機構による「紀州くちくまの熱中小学校」の運営						

【基本目標2】人が集まるかみとんだ

◆上富田町への新しいひとの流れをつくる

■数値目標

「基本目標1」の雇用創出の結果とあわせて、社会増を維持する。(平成27年度から令和元年度までの平均の社会増62人)

また、新たな関係人口500人(実人数)増やす。

基本的方向

- 関係人口を増やす
- 移住・定住環境の整備

施策と重要業績評価指標(KPI)

1. 関係人口を増やす

(3)スポーツによる観光振興	
施策内容	<p>(一社)南紀ウエルネスツーリズム協議会との協働により、スポーツ観光の拠点となる上富田スポーツセンターの運営を中心に周辺観光施設も含めた地域経済の活性化を目指す。</p> <p>(一社)紀州くちくまの未来創造機構との協働により、自転車ツーリズムをはじめ様々な事業活動による地域経済の活性化を目指す。</p>
KPI (重要業績評価指標)	<p>○町への観光客数【宿泊・日帰り】(人) R元年度単年度で343,051人 → R7年度までの6年間をかけて31,949人増 (R7年度単年度で375,000人)</p> <p>○上富田スポーツセンター利用者数(人) R元年度単年度で98,806人 → R7年度までの6年間をかけて69,194人増 (R7年度単年度で168,000人)</p> <p>○南紀ウエルネスツーリズム協議会斡旋による宿泊者数(人) R元年度単年度で7,513人 → R7年度までの6年間をかけて5,487人増 (R7年度単年度で13,000人)</p> <p>○南紀ウエルネスツーリズム協議会斡旋によるスポーツセンター弁当の取扱個数(個) R元年度単年度で11,364個 → R7年度までの6年間をかけて3,636個増 (R7年度単年度で15,000個)</p> <p>○町への外国人観光客宿泊者数(人)</p>

	<p>R元年度単年度で 969 人 → R7 年度までの 6 年間をかけて 2,131 人増 (R7 年度単年度で 3,100 人)</p> <p>○体験ツアー参加者数 (人) R元年度単年度で 98 人 → R7 年度までの 6 年間をかけて 282 人増 (R7 年度単年度で 380 人)</p>	
具体的な事務事業	<p>合宿等スポーツ事業による観光の取り組み *(一社)南紀ウェルネスツーリズム協議会との協働 (一社)紀州くちくまの未来創造機構による事業活動 *(一社)紀州くちくまの未来創造機構との協働</p>	<p>振興課 企画・商工観光班</p>

(4) 民泊の推進		
施策内容	既存の宿泊施設に加えて、通常の民泊と農業体験もパッケージとする農泊等も推進し、町内における宿泊者数を増やす。	
KPI (重要業績評価指標)	<p>○民泊宿泊者数(人) R元年度単年度で 1,157 人 → R7 年度までの 6 年間をかけて 2,143 人増 (R7 年度単年度で 3,300 人)</p>	
具体的な事務事業	民泊推進業務	<p>振興課 企画・商工観光班</p>

2. 移住・定住環境の整備

(5) 空き家の登録		
施策内容	空き家情報を集約化し、移住希望者に物件情報の照会ができるシステムの構築を行う。	
KPI (重要業績評価指標)	<p>○空き家登録数 (件) · · 【通算積み上げ目標】 H27～R元年度 4 件 → R2～R7 年度 6 件増 (累計 10 件)</p>	
具体的な事務事業	空き家登録案内業務	振興課企画・商工観光班

【基本目標3】子育てするならかみとんだ

◆結婚・出産・子育ての希望をかなえる

■数値目標

合計特殊出生率を、令和7年には1.80を回復する。（平成25年から平成29年の期間における合計特殊出生率1.66）

基本的方向

- みんなで育てよう上富田の子ども
- 心豊かな子どもの土台を育てる
- 豊かな心・確かな学力・健やかな体を育む

施策と重要業績評価指標（ＫＰＩ）

1. みんなで育てよう上富田の子ども

(6)子育て支援センターの周知	
施策内容	従来の子育て支援ブックへの掲載・ブックの配布（転入者・母子手帳申請者等）、広報紙への記事掲載（年1－2回）に加え、案内チラシを新たに作成し、乳幼児健診に訪れた家族等に配布することで広く周知する。
KPI (重要業績評価指標)	○ファミリーサポートセンター利用者人数（児童の延べ人数） R元年度単年度で105人 → R7年度までの6年間をかけて10人増 (R7年度単年度で115人)
具体的な事務事業	ファミリーサポートセンター制度の周知業務
	福祉課 子育て支援班

2. 心豊かな子どもの土台を育てる

(7)保育士・調理師の研修		
施策内容	職員研修会（全体・経験年齢別（新規））を実施することにより、保育者全体の質の向上を目指す。	
KPI (重要業績評価指標)	○各種研修の実施（回）‥【単年度目標】 R元年度 1回 → 毎年5回実施する（R7年度から）	
具体的な事務事業	保育士・調理師研修会業務	福祉課 子育て支援班

(8)幼児の一時預かり		
施策内容	生後6ヶ月から未就学児童までを対象とし、保護者が病気をした時や用事等がある場合に利用できることで、保護者の子育て支援を行う。	
KPI (重要業績評価指標)	○一時預かり（児童の延べ人数） R元年度単年度で52人 → R7年度までの6年間をかけて250人増 (R7年度単年度で302人)	
具体的な事務事業	一時預かり事業	福祉課 子育て支援班

(9)スポーツによる子どもの健全育成		
施策内容	就学前児童を対象にした体力向上のためのスポーツ教室を行う。 成長盛りの家庭を対象とした料理教室やトレーニング後に効果的な食事のあり方の研修を行う。	
KPI (重要業績評価指標)	○保育所でのスポーツ教室の実施回数を増やす（回） R元年度単年度で7回 → R7年度までの6年間をかけて5回増 (R7年度単年度で12回) ○スポーツクラブ等への加入者数を増やす（人） R元年度単年度で600人 → R7年度までの6年間をかけて50人増 (R7年度単年度で650人)	
具体的な事務事業	子ども体力向上推進事業 *NPO法人くちくまのクラブに委託 食育料理教室と運動研修会 *(一社)南紀ウェルネスツーリズム協議会との協働	教育委員会 社会教育班

3. 豊かな心・確かな学力・健やかな体を育む

(10) 学校施設の充実		
施策内容	各学校のトイレ洋式化率 45~50%を目指す。 学校プールの改修工事を実施する。	
KPI (重要業績評価指標)	○学校トイレ改修（校）‥【通算積み上げ目標】 R7年度までに 5 校 ○学校プール改修（校）‥【通算積み上げ目標】 R7年度までに 1 校	
具体的な事務事業	学校トイレ洋式化工事 学校プール改修工事	教育委員会 学校教育班

(11) 学力・体力の向上		
施策内容	学力については、不得意科目を克服する学習の工夫をする。 体力については、不得意競技を繰り返し練習させ全国平均以上となるよう体力強化に努める。	
KPI (重要業績評価指標)	○「全国学力・学習状況調査」における学習到達度で平均点以上を目指す ‥【単年度目標】(R2年度から) ○全国体力・運動能力・運動習慣等調査で全国平均以上を目指す ‥【単年度目標】(R2年度から)	
具体的な事務事業	学校運営	教育委員会 学校教育班

【基本目標4】元気でいきいきかみとんだ

◆時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する

■数値目標

健康寿命を伸ばす。当面の指標としては、要介護度2以上の認定を受けた1号被保険者の65歳以上高齢者数に対する割合を令和7年度には11.30%にまで下げる。

(令和元年12月時点の数値は11.38%)

基本的方向

- 自分でつくろう自分の健康
- みんなでつくる災害に強い町

施策と重要業績評価指標（ＫＰＩ）

1. 自自分でつくろう自分の健康

(12) スポーツによる健康増進と介護予防		
施策内容	<p>(一社)南紀ウェルネスツーリズム協議会との協働により、町民の健康づくりの拠点となる上富田スポーツセンター（上富田スポーツサロン）の運営を中心に町民の健康増進と介護予防を図る。</p>	
KPI (重要業績評価指標)	<p>○上富田スポーツサロン会員会費 R元年度単年度で35,031千円 → R7年度までの6年間をかけて4,969千円増 (R7年度単年度で40,000千円) ○介護保険給付費の抑制 R7年度までの6年間をかけて伸び率抑制分 0.7%減 *介護保険計画に基づく原計画(R2年度からR7年度まで) 23.0%増に対して22.3%増となる。</p>	
具体的な事務事業	上富田スポーツセンター（上富田スポーツサロン）の運営 *（一社）南紀ウェルネスツーリズム協議会との協働	振興課 企画・商工観光班 長寿課

(13)運動する人を増やす		
施策内容	いつでもどこでもできるウォーキングをはじめ運動習慣のある人を増やし、健康への関心を高め、自分の健康は自分で守る意識の醸成を目指す。	
KPI (重要業績評価指標)	○運動習慣のある人の数を増やす (%) R元年度単年度で 42.3% → R6年度までの5年間をかけて 2.7%増 (R6年度単年度で 45%) ○国保加入者のメタボリックシンдро́м該当者・予備群を減らす。 R元年度単年度で 29.7% → R6年度までの5年間をかけて 3.2%減 (R6年度単年度で 26.5%)	
具体的な事務事業	運動教室の実施	福祉課 保健センター班

(14)健診率の向上		
施策内容	健診を受けることで、自分の体の状態を知り、健康意識を高めて疾病予防につなげていく。	
KPI (重要業績評価指標)	○国保加入者の特定健診受診率を上げる R元年度単年度で 40.4% → R6年度までの5年間をかけて 3.1%増 (R6年度単年度で 43.5%)	
具体的な事務事業	受診勧奨事業	福祉課 保健センター班

2. みんなでつくる災害に強い町

(15)防災・減災対策		
施策内容	高齢者・障がい者世帯をはじめ、地震対策のための自助努力の支援を推進する。	
KPI (重要業績評価指標)	○家具転倒防止器具の取り付け (件) · · 【通算積み上げ目標】 H27～R元年度 41 件 → R2～R7年度 20 件増 (累計 61 件) ○感震ブレーカーの取り付け (件) · · 【通算積み上げ目標】 H27～R元年度 8 件 → R2～R7年度 20 件増 (累計 28 件) ○ブロック塀等の撤去 (件) · · 【通算積み上げ目標】 H27～R元年度 53 件 → R2～R7年度 55 件増 (累計 108 件)	
具体的な事務事業	家具転倒防止対策事業 感震ブレーカー等購入費補助金交付事業 ブロック塀等耐震対策事業	総務課 庶務・危機管理班

(16) 橋梁・トンネル等の長寿命化	
施策内容	町が管理する橋梁（橋長 2m以上）・跨線橋・トンネルの点検・調査を実施し、それを踏まえた計画的な修繕や維持管理を行い長寿命化を図ることで、安全・安心な通行の確保を図る。
KPI (重要業績評価指標)	<ul style="list-style-type: none"> ○橋梁点検（箇所）‥【通算積み上げ目標】 R7 年度までに 224 箇所 ○跨線橋点検（箇所）‥【通算積み上げ目標】 R7 年度までに 1 箇所 ○トンネル点検（箇所）‥【通算積み上げ目標】 R7 年度までに 3 箇所
具体的な事務事業	道路メンテナンス事業
	建設課 管理班

(17) 水道施設の耐震化	
施策内容	安定的な給水の確保を維持するうえでも、経年劣化した施設の機能回復を行うために水道管の更新を図る。
KPI (重要業績評価指標)	<ul style="list-style-type: none"> ○岩田地区の老朽化した水道管の更新（m）‥【通算積み上げ目標】 R7 年度までに 3,340m
具体的な事務事業	水道管更新事業
	上下水道課 工務班

【基本目標5】みんなで支えるかみとんだ

◆町民全体の知恵と力でもって、これからの上富田町をつくる

■数値目標

上富田町への愛着度を高める。具体的には、町民アンケートで「上富田町をとても好き」と回答した人の割合を 33.3%まで高める。(令和元年11月実施のアンケートでは、29.4%)

基本的方向

- 「愛町心」を育む
- 上富田のアイデンティティを高める

施策と重要業績評価指標（ＫＰＩ）

1. 「愛町心」を育む

(18)歴史・文化の継承					
施策内容	町内にある無形文化財（踊り・楽団・獅子舞・芝居・神輿等地域の伝統行事（50音順））について、若い世代、特に子どもたちへの継承を進める。子どもたちに対し、地域の歴史に対する学習を深めていく。				
KPI (重要業績評価指標)	<ul style="list-style-type: none">○地域の伝統行事の運営に係わる人数（人） R元年度単年度で300人 → R7年度までの6年間をかけて50人増 (R7年度単年度で350人)○歴史学習会の実施（回） R元年度単年度で5回 → R7年度までの6年間をかけて5回増 (R7年度単年度で10回)				
具体的な事務事業	<table border="1"><tr><td>伝統文化・芸能継承事業</td><td>教育委員会 社会教育班</td></tr><tr><td>歴史学習会の実施</td><td></td></tr></table>	伝統文化・芸能継承事業	教育委員会 社会教育班	歴史学習会の実施	
伝統文化・芸能継承事業	教育委員会 社会教育班				
歴史学習会の実施					

2. 上富田のアイデンティティを高める

(19) 熊野高校との連携					
施策内容	本町唯一の高等学校の生徒が、様々なボランティア活動等を通じ住民と交流する機会に触れることで、町の魅力を発見してもらい、将来の地域の担い手を育成する。				
KPI (重要業績評価指標)	<ul style="list-style-type: none"> ○熊野高校生徒のボランティアへの参加生徒数を増やす（人） <ul style="list-style-type: none"> R元年度単年度で 60 人 → R7 年度までの 6 年間をかけて 15 人増 (R7 年度単年度で 75 人) ○ボランティア連携に係わる事業数（件） <ul style="list-style-type: none"> R元年度単年度で 10 件 → R7 年度までの 6 年間をかけて 2 件 (R7 年度単年度で 12 件) 				
具体的な事務事業	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">熊野高校の自主的な地域活動の参加</td><td style="width: 50%;">教育委員会 社会教育班</td></tr> <tr> <td>町主催の各事業への参加</td><td></td></tr> </table>	熊野高校の自主的な地域活動の参加	教育委員会 社会教育班	町主催の各事業への参加	
熊野高校の自主的な地域活動の参加	教育委員会 社会教育班				
町主催の各事業への参加					

※R7年6月改定版にて、KPI を上方修正した箇所は朱書で記載

【参考資料】

S D G s (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標) との関係

～ 各施策が関連する主な S D G s のゴール ～

基本目標	施 策						
働く場のある かみとんだ	(1)農業の担い手の確保と育成	○	○			○	
	(2)企業誘致	○	○			○	
人が集まる かみとんだ	(3)スポーツによる観光振興			○			
	(4)民泊の推進						
	(5)空き家の登録						
子育てするなら かみとんだ	(6)子育て支援センターの周知	○		○	○	○	
	(7)保育士・調理師の研修	○		○	○	○	
	(8)幼児の一時預かり	○		○	○	○	
	(9)スポーツによる子どもの健全育成			○	○		
	(10)学校施設の充実				○		○
	(11)学力・体力の向上			○	○		
元気でいきいき かみとんだ	(12)スポーツによる健康増進と介護予防			○			
	(13)運動する人を増やす			○			
	(14)健診率の向上			○			
	(15)防災・減災対策						
	(16)橋梁・トンネル等の長寿命化						
	(17)水道施設の耐震化						○
みんなで支える かみとんだ	(18)歴史・文化の継承				○		
	(19)熊野高校との連携				○		

第2期 上富田町まち・ひと・しごと創生総合戦略

発行 上富田町

編集 上富田町振興課

〒649-2192 和歌山県西牟婁郡上富田町朝来 763 番地

TEL 0739-34-2370 (直通)

FAX 0739-47-4005

E-mail shinkou@town.kamitonda.lg.jp